平成２９年度　第２回
西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録（確定稿）

■開催日時：平成２９年７月１１日（火）１８時３０分～２０時３０分
■開催場所：田無総合福祉センター４階　第３会議室
■出席委員：大高則明、小野修平、荘雄一郎、冨澤佳代子、阿壽子、渡辺裕一
＜以上６名、敬称略、五十音順＞

資料　１：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(平成 29 年 5～6 月)
資料　２：コーディネート状況等月次報告（平成 29 年 5～6 月）
資料　３：ボランティアコーディネート実績（平成 29 年 5～6 月）
資料　４：ボランティアはじめて講座　アンケート集計結果
資料　５：平成 29 年度西東京ボランティア・市民活動センター予定表（7～8 月）
資料　６：平成 29 年度第 1 回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録（未定稿）案
資料　７：市区町村社協ボランティア・市民活動センターのめざすもの
資料　８：西東京ボランティア・市民活動センターの現状と課題
資料　９：今後の取り組みについて
～これからの西東京ボランティア・市民活動センターの姿～
資料１０：３つの取り組みについて
資料１１：社会福祉法人西東京市社会福祉協議会組織図
資料１２：ボランティアを活用する社協事業
資料別冊：2016 年度第 6 回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録＜確定稿＞
資料別紙：ぼらんてぃあ倶楽部第９７号

●九州北部豪雨災害を受けての報告と現在および今後の取り組みについて

＊事務局より、現在の被害状況および災害ボランティアセンター開設状況について説明する。
→九州北部豪雨災害に関しての義援金について募集を開始したが、現地で活動している団体を支援する支援金にもぜひご協力をいただきたい。

＊災害ボランティアに関係する委員からの意見等
・西東京市でも災害ボランティアセンター等の体制の確認を行っていく必要があるだろう。
・西東京レスキューバードは、西東京市で大規模災害発生時の備えのための活動をしている。現在 35 名だがこれからメンバーを増やしていき、いざという時に備えたい。
・市総合防災訓練での災害ボランティアセンター設置・運営訓練においても社協と西東京レスキューバードが協力して行っているところである。
・「災害ボランティア」は、「ボランティア」という言葉だけでもハードルが高く、「災害」という言葉が付くと余計にハードルが高い。
・水害・地震など様々な災害ボランティア活動がある。それを知ってもらうことが必要である。

１．報　告　事　項

(1)．業務報告(平成 29 年 5 月・6 月)について（資料１～３）
・相談受付件数について昨年度と比較すると多くなっている理由について教えてほしい。
→集計方法を変更し、簡単な相談・問い合わせについても集計に含むようにした。
・新規登録者数が大幅に増えた理由について教えてほしい。

→はじめて講座受講者の新規登録が多かったことが一番の要因と思われる。またコーディネーターのアプローチが充実していたと思われる。

・登録ボランティアの減少幅が例年と比較すると少なかったと思うがいかがか。
→昨年とはほぼ変わらないが、一昨年と比較すると減少幅が少なくなっている。

(2)．ボランティアはじめて講座の実施報告について（資料４）

・30～40 代の若い世代が参加しているが、何か広報で工夫したことはあるか。
→いつもと同じである。郵便局に配架していただいたチラシを見て参加した方が２名いた。年度初めに近い時期での開催ということで、開催時期も良かったと思われる。

(3)．業務予定(平成 29 年 7 月・8 月)について（資料５）

・夏！体験ボランティアの参加申し込み状況はいかがか。
→昨年と比較すると出だしは好調である。今後も周辺区市から多くの申し込みが予想される。

・課題であるとボランティア保険が適用されないため、武蔵野大学では課題でも適用される手厚い保険に加入している。
→夏！体験ボランティアに限っては課題でも対象になる。

・夏！体験ボランティアの活動先を決めるにあたっては、職員が活動先の提案するのか。
→提案はせず、希望する活動先を申込書に書いて提出してもらい、調整する形になっている。

・夏！体験ボランティアの受け入れ先件数は増えたか。
→新たな受け入れ先として４件開拓でき、増加している。

・夏！体験ボランティアの受け入れを取りやめた施設・団体はあるか。
→今年度、昨年度と受け入れを取りやめたところはない。

・受け入れ側としては、ボランティアに満足してもらえるものを提供するのがなかなか難しく、求めているものと違っている場合があったりすると申し訳なく思う。

・受け入れをしていてもなかなか参加者が来ない悩みがある。保育園や点字などイメージしやすい活動に参加する傾向があると思われる。

・夏！体験ボランティア参加者が登録に結びつく流れや仕組みはできているのか。
→現在のところ、そのような流れや仕組みはない。将来につなげるという流れで行っている。

・高校生や大学生、社会人などは即戦力だと思う。案内を１枚入れるだけでも違うのではないか。
→仰るとおりである。窓口の声掛けやアンケートの工夫の余地はあるだろう。

・今の若い世代を狙った LINE アプリを使った情報提供があっても良いのではないか。
→ホームページにボランティア情報を掲載している。ホームページを活用した情報発信は必要。
→西東京ボラセンの場合、SNS での情報発信するためのハードルが高い。他市区町村のボラセンではもっと早く発信できているところがあり、災害時の情報発信のあり方が問われている。

・社協の中でのルールがかなり固いのではないか。社協の中で考え方の整理が必要ではないか。
→アカウントをとる決裁だけとし、発信内容は担当者に一任しているボラセンもある。権限を下げる見直しが必要であろう。

・公的情報やボランティア募集情報、テンプレートに沿った情報はすぐに出しても良い。

・栃木県鹿沼市社協の広報はとても上手であった。広報の違いでボランティアの集まりが違う。

・この場で意見書をまとめることはできないだろうか。
→できるだろうが、規定をクリアしていく具体的方法を明確にして作り込む必要がある。安全に素早くできる方法を誰にでもわかる形であげていくことが必要。

・セキュリティポリシーとの兼ね合いはかなり出てくる。市のセキュリティポリシーは非常に厳

しいもののようだ。その中でどう動けるかという話しになるだろう。
・具体的な事例を提供し、社協の中で検討してもらうのはどうだろうか。
・他に情報発信で困っている部署はないだろうか。
→理由はわからないがうまくやっているのは、ゆめこらぼ。独自のホームページと Facebook があり、夜中でも更新しているが、決裁がどうなっているのかわからない。
→市の委託事業であるので固いはずだが、課題をクリアしているのかもしれない。
・今後も継続して考えていきたい。情報収集したら運営委員会でも情報提供してほしい。

２．審　議　事　項

(1)．平成 29 年度第 1 回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録（未定稿）案について（資料６）

＊確定稿とすることについて承認される。
＊平成 28 年度のボランティア保険の事故状況（西東京市内）について事務局より報告する。
→保険会社からは毎年提供するのは無理だが、今回は特別に情報をご提供いただいた。
→昨年度の西東京市内のボランティア保険事故件数は１９件。そのうち転倒によるものが１１件（往復途上５件・活動中６件）、残りの８件は様々である。蒸気の噴出、石で滑って捻挫、テーブルから降りて怪我、門扉に足をひかれた、テントの倒壊による怪我などである。
→１９件の事故のうち、傷害保険にあたるものが１７件、賠償責任保険が２件あった。
→保険事故の対象者は、全員が５０歳以上。５０代２人、６０代４人、７０代６人、８０代７人。
・実態を知っておく、リスクを知っておくというという意味で重要な情報である。
・西東京市の地域性もあるだろうが、坂が少なくてもこれだけの転倒者がいるということをボラセンとして知っておく必要があるだろう。今回限りということでなく、毎年把握してほしい。
・余裕があれば、保険に加入される際に適切なプランをアドバイスしてほしい。
・年齢の高い方、転倒による事故が多いというリスクがよくわかる。ボランティアの受け入れ先への情報提供、声掛けなどもできるだろう。

３．協　議　事　項

(1)．アクションプラン（仮称）の策定について（資料７～１２）

・ボランティア活動を活発にするためのボラセンの今後のあり方や方向性などについてまとめたい。これから先はできていないことに焦点を当てるのではなく、具体的に何に取り組むか、前任期で検討された 3 つの機能を踏まえ議論していきたい。
・コーディネート機能、プラットホームづくりは大変重要な機能だが拡散している状況である。
・ボランティアを活用する社協事業で、それぞれ登録制度があり、効率的ではない部分がある。その中でのボラセンの位置付けも見え辛い。、見えるようにするために具体的な方法をみんなで考え、アクションプラン（仮称）という形でこの２年間の任期の中で議論していきたい。
・新しいボランティアが常に入ってくる仕組みをつくり、サイクルを回していける仕組み（＝プラットホーム）づくりを大きく前面に出して意識して取り組む必要があるだろう。
・若い運営委員がいるが、福祉・ボランティアに興味を持った理由やきっかけなど話してもらいたい。若者をボランティアに取り込むためのヒントになるのではないか。
・自発性はもちろんあったが、離してくれない強制感があったのも事実。学生がボランティアに参加しても、受験や進学などの理由によりフェードアウトしていくことがある。自分自身は地

域の方々から次から次へと活動を紹介され、次につながっていった。声をかけ続けることなど、入口で終わらずさらに継続させていくことをいかに考えるかが鍵なのではないか。

・ただ参加するだけでなく。役割を与えられて、自分で考えて動くことがあったのも大きかった。責任感を与えるというのは大切なことであろう。

・夏！体験ボランティアでも、声掛けやアンケートの位置分だけでなく、ひと手間かけてどう次の活動に結び付けていくかをアクションプラン（仮称）に加えて行っても良いだろう。

・夏！体験ボランティアでは、前回参加した方が次の参加者に向けて体験記や活動のコツを冊子にまとめるとか、次回のチラシ作成の活動をしてもらうと良いのではないか。

・アクションプランでボランティア新規登録者目標が２０名となっているが、その根拠は何か。
→根拠は残念ながらわからない。設定目標は確かに少ないかもしれない。

・同じ２０万人程度の人口でのボランティア登録者数の比較としてはどうか。
→登録ボランティア数としては多いかもしれない。300 名を超えるところは少ないと思われる。

・せっかく登録してもらってもすぐに紹介できないのはボランティアとしても寂しいだろう。
→登録に来てくれた方には希望する活動があればすぐに紹介し、無い場合でも希望を聞いて施設等に声掛けをして活動を生み出し、活動したいという方に紹介できるよう工夫している。

・紹介されて行った施設・団体に、その後ボラセンを通さずに活動していることもある。
→紹介した後、直接やりとりをして活動しているボランティアも多い。

・見えない数字も結構あるのだろう。本当の意味でボランティア活動が活発になっているということであるなら良いだろう。入口の支援をしっかりやったということが重要だろう。

・コーディネート業務を行う上で困っていることはないだろうか。
→依頼に対してただ紹介するのではなく、ボランティアの置かれた状況を踏まえながら受け入れ担当者と相談して調整したり、活動が難しそうな方には関係者と再度相談することを勧めている。活動したい気持ちを大切にし、可能な限り活動できよう紹介している。

・ボラセン運営のボランティアという方法もある。ボランティアコーディネーターの経験があるが、一人職場であったので、経験豊富なボランティアが何人か運営を手伝ってくれていた。おかげで自由な活動ができたが、一人だけで全部やろうとすると難しかったと思う。

・公民館６館あるうち２館で障がい者の教室があるが、ボランティアが足りない状況にある。そのようなところとの連携はあるのだろうか。
→以前、担当職員からはボランティア依頼があった。全くつながりがないというわけではなく、障がい者の分野で活動したいというボランティアには活動先の１つとして紹介している。

・同じ福祉の視点で子ども食堂にはボランティアが来るが、そのボランティアに障がい者学級の活動を勧めても全然来ない。「障がい」と付いただけで引いてしまう。同じボランティアでも分野によって差がある。それも整理してアクションプラン（仮称）を作らないといけない。

・次回に向けて、意識をしていただけたと思うので、どのような手を打って一緒に考えていくか、継続して議論していきたい。また、本日出た情報の事も含めて一緒に考えていきたい。

４．そ　の　他

(1)．次回運営委員会開催日程について

■開催日時：平成２９年９月１２日（火）１８時３０分～２０時３０分

■開催場所：田無総合福祉センター４階　第３会議室

●以上をもって平成２９年度第２回運営委員会の審議、協議を終了し、閉会した。